

(お知らせ)

アホウドリ新繁殖地形成事業による聳島へのヒナの帰還について

<環境省自然環境局 同時発表>

平成23年2月10日(木)

(財)山階鳥類研究所

小笠原群島^{むこじま}聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業(伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原諸島聳島に移送し、新しい繁殖地を形成する事業(平成20年から実施))において、平成20年に聳島を巣立ったヒナ1羽が聳島に戻ってきたことを2月10日に確認しましたのでお知らせいたします。当事業で聳島に個体に戻ってきたのは初めてになります。

なお、同じく平成20年に巣立ったヒナ1羽についても、現在伊豆諸島鳥島初寝崎で確認されました。

※この事業は、(財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているもので、今年度が4か年目となります。

○小笠原諸島聳島の個体

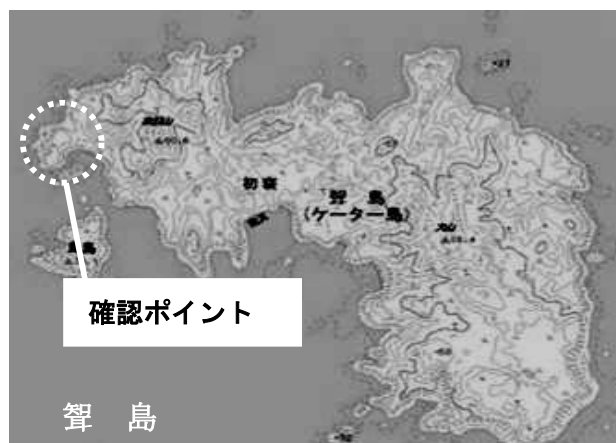
1. 確認された個体

平成20年に巣立った個体 Y01(3歳、雄)

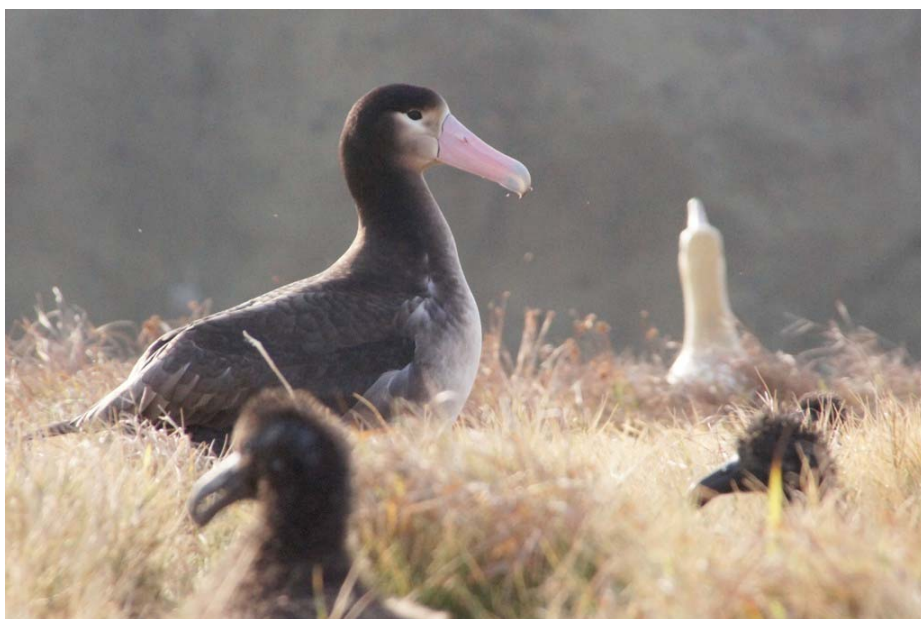
(なお、繁殖開始年齢は7歳頃のため、すぐに繁殖活動を行うものではありません)

2. 確認された場所

聳島で飼育を行っていた場所



< 聳島個体の写真 >



*手前の2羽は今年移送したヒナ。奥はデコイ

写真提供：(財) 山階鳥類研究所

○伊豆諸島鳥島の個体

1. 確認された個体
平成20年に巣立った個体 Y04(3歳、雄)
2. 確認された場所
伊豆諸島鳥島初寝崎

<参考>

○アホウドリについて

アホウドリ (*Diomedea albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。(2010年北太平洋のミッドウェー環礁で繁殖したと報道されたヒナは別種の可能性もあると言われている。)
- ・非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949年の調査で1度絶滅宣言が出されたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が84～94cm。
- ・繁殖活動は10月～翌年5月。
- ・7歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成5年)
- ・国の特別天然記念物

写真



繁殖ペア(手前はクロアシアホウドリ)



求愛ダンス



巣立ち直前のヒナ(5月)



給餌

○これまでの経過

<平成19年>

3月～6月 近縁種のクロアジアホウドリによる飼育試験を実施

<平成20年>

2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽（雄4羽、雌6羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓（山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月19日～25日 ヒナの巣立ち

5月～9月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた4羽がベーリング海へ到達。
聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<平成21年>

2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄10羽、雌5羽）を、小笠原群島聳島まで移送。

↓（山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月11日～25日 ヒナの巣立ち

<平成22年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄11羽、雌4羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓（山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<平成23年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。（性比については、血液検査を経て4月頃判明する予定。）